

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500892		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	宮城県大崎市三本木蟻ヶ袋字混内山1-6		
自己評価作成日	平成26年 8月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者と知的障がい者がともに生活をしている共生型グループホームとなっている。年をとっても障がいがあっても住み慣れた地域で、その人らしく生活できるような支援を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近くには鳴瀬川が流れ、桜の美しい館山が見え、地域在住の多い入居者には見慣れた光景である。木造の建屋の「なのはな」は、共生型で世代を超えた馴染みの関係が築かれ、リビングで過ごす入居者は活気のある生活を送っている。同法人の特養や近くのシルバーハウジングとの交流があり、ボランティア来訪時は鑑賞に出かけたり、合同の避難訓練等に参加している。日常の地域とのつながりの強化に向けた取り組みや身体拘束では、もう一步踏み込んだ対応の工夫について職員間で検討していただくことを課題としたが、さらなるサービス向上に取り組むことを期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年9月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム なのはな )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で作った理念を職員の目が届く場所に提示したり、会議の中でも理念を達成できるよう支援を検討している。	会議で、職員優先のケアになっていないか等を管理者が話したり、理念を事務所等に貼り職員間で共有している。年に一度、理念について話し合いを設け、さらなる質の良いケアになる事を望みたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の運動会への参加やシルバーハウジング合同での芋煮会などを開催する事で交流を図っている。また、入所前からの床屋や商店を利用する事を大切にしている。	散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、地区の運動会に入居者が参加するが、入居者の状態低下を機に近隣との付き合いが消極的になった。地域の見守りや災害時の協力体制が必要と思われる。	ホームの行事に招待したり運営推進会議に近隣、地区長等に声をかけ情報(地域行事、ボランティア)を得るなどして日常的な地域との交流を課題として取り組んでいただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大崎市の認知症高齢者の家族相談会への参加や認知症地域支援推進チームに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況報告などを行いながら、全体会議にて報告、検討し、改善できる事は直ぐに対応し反映している。	奇数月に開催し、民生委員、入居者、家族、地域包括職員が参加している。ホームの状況報告や感染症対策、高齢者の行方不明の話題では、地域住民に協力を要望してはどうか等意見が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ出席していただいたり、電話や直接伺って相談など行っている。	地域外の入居者の受け入れの相談をし、対象外であることを告げられた。職員の人事配置で管理者の兼務や研修等での不在の際に管理者の代行の有無に関する相談をし、適切な助言を頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議やケアの中で身体拘束を行わない支援の大切さや工夫を検討している。1人で散歩をしたい場合などは見守りを行っている。	日中施錠はせず、自由に出入りできる状況にある。職員は拘束による弊害を理解している。外出を日課としている入居者について、見守りに対応している。職員間での話し合いに工夫を凝らし、もう一歩踏み込んだより良い対応を検討して頂きたい。	拘束を行わないケアで見守りの対応は不可欠である。本人の行動パターンを24時間シートを活用し、要因を探る等して本人の思いに沿った対応を職員間で検討し、本人、職員にとってのケアの在り方を検討して頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	バックアップ施設の研修へ参加し、学ぶ機会を持ち、虐待に対する意識をもちながら全体会議や支援の中で声掛けなどに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、成年後見制度などについて学んでいる。また、研修の内容については全体会議で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際には、契約書、重要事項説明書にて説明し、改定の際にも文書、口頭にて説明をおこない、同意して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な支援の中やご家族の面会時などに意見を確認したり、運営推進会議の中で意見交換を行っている。対応可能なものは直ぐに反映している。	入居前から、常用していた健康食品や散歩、洗濯物たたみ等の役割は家族からの要望によるものである。遠方の方には本人の手紙に写真を添え、その中で要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議だけでは無く、日常的に意見を聞き、反映するようにしている。	散歩に買い物を取り入れたり、歌詞カードを作り、カラオケをするようになった。職員間は遠慮なく言い合える環境にある。業務の時間を見直し、休憩時間の確保、希望休、夜勤についても職員の意向に沿っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて個々の努力、実績を評価している。また、資格取得の為に年休や職専免等の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加や職員に合わせたアドバイスを行うように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	共生型グループホームの研修会や法人内のグループホーム勉強会等に参加し、意見交換などおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族、ケアマネージャーから状況など確認し、職員へ周知。その情報を持った上で入所後、本人の様子を確認しながら支援できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談や契約時に不安な事や疑問など確認するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前までの生活を把握した上でグループホームではどのように過ごしたい、過ごして欲しいか等確認し、会議等で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備を手伝ってもらったり、一緒に同じ食卓で同じ食事を食べ一緒に過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙のやり取りや普段の生活の中での本人の希望など伝えながら外出や通院など協力を貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの掛かりつけ医への通院や床屋など馴染みの関係が切れないよう支援している。	共生型であり、世代を超えてをお互いを思いやる馴染みの関係が出来ており、リビングで過ごしている光景や食事風景は和んでいる。洗濯物たたみ等は馴染みの関係が活かされた入居者同士の役割となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や好みを把握できるよう努めている。一緒に洗濯物をたたんでもらったり、職員が間に入り、関わられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所した際には状況を聞いたり、契約終了後もご家族からの相談などいつでも声を掛けていただくよう話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で希望をうかがったり、性格や普段の行動から本人が何を好むか等を全体会議で検討しながら支援している。	入居者が自ら歌詞カードを配り、カラオケをしたり、職員の行動を見て手伝ったり、率先して行動する入居者もいる。居室で過ごしている方をさりげなく誘い、リビングで過ごす時間が長くなった等改善につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活スタイルやサービス利用状況を実態調査やケアマネから確認し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援の中で一日の過ごし方がわかるよう24時間の記録を作成し、把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者が中心となりながら本人や家族から意向を確認。全体会議で話し合いながらプランを確認、検討している。	毎月、計画書の内容を確認し、担当職員から情報を収集して、全体会議に諮り見直し作成している。期間内に状態変化や本人、家族から意見などがあれば、継続であっても計画書に取り入れ反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間シートを利用し、日々の様子や引継ぎノートを利用する事で情報の共有をしている。また、月1回各担当で状況を確認し、記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や通院など話し合いながらできる限り対応している。場合によってはバックアップ施設の百才館に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋を利用したり地区の運動会や近所を散歩する時など同じ地区の方などに声を掛けてもらいながら過ごせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医を継続して受診している。家族が対応する場合は健康状態や普段の状況を伝え受診していただく。緊急時はグループホームの協力医を受診することもある。	協力医との連携もよく、緊急時や夜間でも応じてくれる。通院の付き添いは家族であるが職員が多い。情報等はケース記録や24時間シートを持参している。通院の結果はその都度家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師の配置が無く、その都度協力医へ相談、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には2～3日おきに面会に伺い、施設での状況を伝えたり、入院中の状況を確認し、情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談や契約の段階で当グループがどこまで対応できるか説明をおこなっている。協力医、家族と今後の対応についてその都度相談し、対応している。	看取りについて入居時に口頭で説明している。指針や意思確認書の成文化はまだである。協力医の絶大な支援で3例看取った。入居者、家族の安心した生活に向けて、ホームの出来る事等を文書化し、体制を整え重度化、看取りのケアに備えて頂きたい。	看取りにおける成文化と意思確認書の作成に取り掛かり、職員の研修等を実施するなどして体制を整えて頂きたい。また文書に基づいて入居者の状況に応じて家族に説明する等も加えてお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加し、会議の中で急変時の対応方法など確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災を想定した避難訓練を実施している。昨年、運営推進会議の中で避難訓練の内容を見ていただいた。	訓練は夜間想定を含め年2回と地域の総合防災訓練に参加している。記録に反省はあるが活かされていない。職員間で反省点の解決策を話し合う事や地域住民の協力の呼びかけをお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の介護を観察し、気になる部分はお互いに声を掛け合っている。その人に合った対応ができるよう全体会議などでも話している。	入居者の状態により、一気に話さず本人に合わせる等声掛けや対応を工夫している。物を持って話す癖のある方には、入居者の間に入ったり、外に出て気分転換を図り、気持ちを和らげるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に声を掛けやすい環境作り。職員から希望を確認したり、家族から情報をいただく事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動に合わせて支援し、散歩や外出などを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを把握し、衣類等購入するよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭きなど手伝ってもらっている。嗜好品を個別に購入し、希望時に提供できるよう支援している。	法人の栄養士の献立を参考にしている。昼の味噌汁を抜いたり、朝は手軽な目玉焼きにしたり海苔の佃煮や納豆を好む入居者もいる。蒟蒻みそ造りや煮物、煮魚の調味料配合は入居者の知恵を拝借している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事、水分量を把握している。食器を本人の食事量に合わせて対応し、また、食事形態もメニューによって変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔状態に合わせて、用具を変えたり、支援をおこなっている。家族の希望にて外部の口腔ケアを受けている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分量や排泄パターンを把握し、その方に合わせ働きかけトイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの状態にあわせたケアで昼夜トイレで排泄をしている。排泄チェック表で時間を見て誘導したり、下剤の調整をするなど排便管理を行っている。快適な生活に向けリハビリパンツは毎日交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取って頂くよう一回のお茶の時間でも飲み物を変えたり、散歩などへの働きかけをしている。家族の希望で食物繊維を摂っている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴自体は毎日入れるようにしている。本人の希望や体調を確認しながら入浴の頻度を調整している。	2日に1回午後の入浴が多い。入居者の希望で週2日火、金と決めている方や湯上りのビールとつまみを楽しみにしている方、入浴剤など要望に応じた支援である。各自のシャンプーとボディークリームを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活の流れを把握し、また、体調など確認しながらお昼寝の声掛けなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容に変更があった際には引継ぎノートと全体会議を活用し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活歴を把握しながら役割を持っていただいたり、嗜好品や散歩など外出は個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見などその都度意向を確認しながら外出できるよう支援している。希望時、対応可能であれば直ぐに対応するようにしている。	ホームの周りを散歩したり、日向ぼっこをすることが多い。家族の協力で外食に行ったり、鳴子に一泊する方もいる。少人数での買い物等個別の外出が多いが、大勢の時は法人の車で万葉の郷や色麻町の愛宕山等に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している方についてはご家族に説明し、買い物の際など自分で持っているお金で払って頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事や外出時の事を手紙で遠方に住むご家族へ送っている。電話があった場合には本人にかわって話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を心がけ、過度な冷暖房などに注意している。季節の装飾や散歩の際に花を摘みリビングに飾っている。	木造の建屋の中央にある大きなガラス窓から光が存分に差し込む広いリビングがある。そこで入居者は過ごしている。ピンクのテープで作ったコスモスの花を壁に飾り、食卓には入居者が積んできたコスモスが花瓶に季節感を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性など確認したり、テレビの近い位置に座っていただくなどその人に合わせて過ごせるようにしている。また、廊下にソファがあり、静かにくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自分の物と認識できるよう使い慣れた家具など持ってきて頂き使用したり、必要なものは随時購入し、対応している。	居室は畳敷で、洗面台が取り付けられ、クローゼットがある。個々に応じて布団やベッド、整理棚や、衣装ケースが置かれ、思い思いの居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいよう印をつけたり、居室の入り口には表札をつけ、分かりやすくしている。		